

平成26年度 事業報告書

公益財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 小学生専門委員会活動

(1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

中国	: 6月28日(土)岡山県倉敷市	北海道	: 6月28日(土)函館市
北信越	: 8月10日(土)富山県氷見市	近畿	: 8月23日(土)大阪府岸和田市
四国	: 8月30日(土)愛媛県砥部町	東海	: 10月25日(土)三重県鈴鹿市
東北	: 12月6日(土)宮城県大崎市	関東	: 12月6日(土)茨城県守谷市
九州	: 12月20日(土)沖縄県浦添市		

・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2) 小学生専門委員会

第1回小学生専門委員会 5月11日(日)日本協会事務局

(ア)第27回全国小学生大会について

(イ)J級指導者養成講習会について

(ウ)ブロック委員会の開催について： 会議の形態、持ち方について

(エ)Jクイックハンドボール本格実施に向けて

(オ)(公財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

i)企業チーム地域活動への援助

ii)地域活性化推進ブロック委員会について

第2回小学生専門委員会 7月31日(木)京都府京田辺市

(ア)小学生のゲーム様式について

(イ)ブロック活動状況報告（大会、交流会、指導員養成等々）

(ウ)日韓小学生交流会について

(エ)ブロック委員会の開催について

2) 学校体育検討専門委員会活動(小学生指導要領対策)

文部科学省訪問 4月18日(金)文部科学省スポーツ・青少年局

第1回学校体育検討専門委員会 4月19日(土)日本協会事務局

(ア)第17回研究集会実施案検討：講師依頼(文部科学省調査官等)

(イ)授業実践者の募集、選出について(平成26~27年度6名)

(ウ)授業手引書の作成について「小学校におけるハンドボールの授業」

小委員会(打ち合わせ) 7月27日(日)筑波大学

研究集会(授業研究検討)7月28日(月)・29日(火)筑波大学(参加者150名)

(ア)授業発表

(イ)実技研修と講義

3) 中学生専門委員会活動

第1回中学生専門委員会 8月16日(土)愛媛県松山市

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第23回JOC大会について

(ウ)第10回春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

(エ)中学生クラブチームの活動について

第2回中学生専門委員会 12月24日(水)福島県福島市

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第24回大会の大会運営について(沖縄県)

(ウ)中学生の3号球の使用状況について

4) マスターズ専門委員会活動

第1回マスターズ専門委員会 8月1日(金)沖縄県浦添市屋内球技場会議室

第2回マスターズ専門委員会 3月1日(日)山梨県甲州市塩山体育館

(ア)委員長経過報告

・関西ワールドゲームズ2021開催について(生涯スポーツのオリンピック)

(イ)Web登録について

・来年度も現状の申込用紙(登録用紙方式)で実施する

(ウ)各地区の現状

・東海：10月18日(土)第8回東海マスターズ 岐阜県岐阜市ヒマラヤアリーナ

・東北：11月2日(日),3日(月)第12回東北マスターズ 秋田県湯沢市総合体育館

・関東：1月10日(土)横浜マスターズ 神奈川県横浜市横浜国際プール

2月28日(土)3月1日(日)塩山マスターズ 山梨県甲州市塩山体育館

・九州：2月22日(日)第18回九州マスターズ 福岡県久留米市総合SC

・近畿：3月21日(土)第12回近畿マスターズ

(エ)その他

・今後の全日本大会開催予定 第23～25回大会は愛知県豊田市で開催

5) ビーチハンドボール専門委員会活動

平成26年度ビーチハンドボール委員会 8月23日(土)愛知県南知多町

第16回全日本ビーチハンドボール選手権大会

期日 8月23日(土),24日(日) 愛知県南知多町千鳥ヶ浜海水浴場

結果 男子：優勝:MJクラブ(愛知)、2位:FSTBH2014(東京)、3位:AsianBeachTeam

女子：優勝:AsianBeachTeam、2位:SHINE(茨城)、3位:東海 Weeds!A(愛知)

第4回アジアビーチゲームズの強化合宿 合計4回

南房総市富浦海岸、愛知県南下町千鳥ヶ浜海水浴場他

第4回アジアビーチゲームズ

期日 11月15日(土)～22日(土) タイ・プーケット

結果 男子：優勝:カタール、2位:オマーン、3位:パキスタン、4位:バーレーン、

5位:クウェート、6位:日本、7位:タイ、8位:ベトナム、9位:香港、

10位:インド、11位:バングラディッシュ

女子：優勝:タイ、2位:チャイニーズタイペイ、3位:ベトナム、4位:中国、

5位:日本、6位:香港、7位:ヨルダン、8位:トルクメニスタン、

9位:フィリピン、10位:インド

各地での大会

・第3回 BEACH CORAZON

開催日 7月13日(日) 沖縄県名護市

・第15回東北大会

開催日 7月27日(日) 青森県野辺地市

・第18回ビーチハンドフェスタ富浦さざ波大会

開催日 8月2日(土)、3日(日) 千葉県南房総市富浦町原岡海岸

・第4回ビーチハンドフェスタ in Aoshima

開催日 9月14日(日)、15日(月) 宮崎県宮崎市こどもの国

6) 女性委員会活動

女性指導者の指導環境における意識調査

目的：女性指導者の資質向上と指導環境の現状把握

期間：平成26年8月1日～11月末 対象：女性指導者 160名

課題：出産、育児に伴う指導時間に関すること

各年代に応じた一貫した指導方法に関すること
 指導者としての孤独感に関すること
 3月3日(水)「平成26年度JOC女性スポーツフォーラム」に参加(JOC主催)。
 各競技団体における女性理事、役職者の果たす役割などに関する情報交換。

7) 指導委員会活動

- (1)日本体育協会公認スポーツ指導員養成専門科目実施県
山梨県、奈良県、広島県、熊本県、大分県
- (2)日本体育協会公認コーチ養成専門科目講習会 6月23日(月)~28日(土) 22名受講
- (3)トップコーチセミナー 講師：クラウド・フェルドマン氏
東京会場：6月30日(月)、7月1日(火)
愛知会場：7月7日(月)、8日(火) 127名参加
- (4)コーチ・レフェリーシンポジウム 3月21日(土)、22日(日) 駒澤大学 42名参加
- (5)全国指導委員会 2月21日(土)
 - ・中央委員会組織の再整備と役割分担
 - ・各県指導委員とNTSとの関わりについて
 - ・各ブロック・県の指導委員との連携
 - ・義務研修およびシンポジウム内容の検討
- (6)全国競技別講師研修会 2月21日(土)、22日(日) 講師：モチャイ・ラヨシュ氏
参加者 115名
- (7)J級指導員養成
愛知県、神奈川県、北信越、日本協会 新規 57名
- (8)第2回全国U-12指導者研修会(小学生委員会合同開催)
10月4日(土)、5日(日) 73名参加

8) 競技者育成技術委員会活動

- NTS指導内容策定検討委員会:2月21日(土)、3月21日(土)
- ・強化、指導、小学生、アカデミー等の連携を図り一貫指導内容の検討
- U12ゲーム検討委員会 10月5日(日)、11月3日(日)
- ・ルールの修正
 - ・平成27年度本格実施に向け講習会等の検討

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
6月	第19回北アジア国際大会	6/13-15	広島市・東区SC	男子 1:韓国 2:日本 女子 1:韓国 2:日本 3:広島メイプルズ 4:SKオース
7月	高松宮記念杯第4回全日本社会人選手権	7/2-6	中村SC、枇杷島SC	男子 1:トヨタ車体 2:大崎電気 3:琉球コラソン 女子 1:北國銀行 2:松岡 3:広島メイプルズ
	第34回全国クラブ選手権西地区	7/12,13	高知県民体育館他	男子 1:宮崎フェニックス 2:岩国クラブ 3:中央クラブ 女子 1:コリスティックス 2:FCC 3:那覇西クラブ
	第34回全国クラブ選手権東地区	7/12,13	本宮市総合体育館他	男子 1:桜門クラブ 2:渡辺組 3:湖陵クラブ 女子 1:REDS 2:ガビアーニックス 3:やんちゃクラブ

8月	第22回全日本マスターズ大会	8/1-3	浦添市民体育館他	男子 1;GHBP ARES 2;下松アグリ 3;沖縄教員 女子 1;御座姐 2;MLN39 3;富山インパルス
	第27回全国小学生大会	8/1-3	京田辺市田辺中央体育館他	男子 1;東海 HBS 2;北陸電力ジュニアブルーワックス 3;松井ヶ丘小学校 HBC 女子 1;神森小 HBC 2;比美乃江 HBC 3;東久留米 HBC
	高松宮記念杯第65回全日本高校選手権大会	8/2-7	川崎市とどろきアリーナ他	男子 1;興南 2;小林秀峰 3;法政二、横浜創学館 女子 1;佼成女子 2;富岡東 3;高松商業、高岡向陵
	第19回ジャパンオープンメント和歌山国体バレー大会	8/9-12	和歌山市立河南体育館他	男子 1;FOG 2;長崎社中 3;HONDA 女子 1;香川銀行 T・H 2;HC 和歌山 3;京都クラブ
	第41回全国高等専門学校選手権大会	8/18,19	鳴門大塚スポーツパーク アミハリユニバーサル	1;徳山高専 2;有明高専 3;津山高専、大阪府大高専
	第43回全国中学校大会	8/18-20	愛媛県武道館他	男子 1;培良中 2;東久留米西中 3;多々良中央中、平田中 女子 1;港川中 2;神森中 3;平田中、下津井中
第16回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/23,24	南知多町小枿公園海岸	男子 1;MJクラブ 2;FSTBH2014 3;AsianBeachTeam 女子 1;AsianBeachTeam2;SHINE 3;東海 Weeds!A	
9月	第33回全国クラブ選手権東地区	9/13,14	一宮市総合体育館	男子 1;ホントアイズ 2;KSV 3;FSV TOKAI 女子 1;御座候 2;GET'S 3;いろは
10月	第69回国民体育大会	10/16-20	佐世保市東部スポーツ広場体育館他	成年男子 1;埼玉県 2;愛知県 3;宮城県 4;広島県 成年女子 1;石川県 2;熊本県 3;鹿児島県 4;広島県 少年男子 1;沖縄県 2;神奈川県 3;岡山県 4;宮崎県 少年女子 1;愛知県 2;三重県 3;東京都 4;兵庫県
	第38回日本リーグ・レギュレーション	10/25-3/8	各地	男子 1;大崎電気 2;トヨタ車体 3;大同特殊鋼 4;琉球コソソ 女子 1;北國銀行 2;私団 3;広島メイプル 4;ソニセミコンダクタ
11月	高松宮記念杯男子第57回女子第50回全日本学生選手権大会	11/22-26	岐阜メモリアルセンター他	男子 1;中部大 2;日本大 3;早稲田、大体大 女子 1;大体大 2;大教大 3;東女体、筑波大
12月	第66回全日本総合選手権大会	12/24-28	愛知県体育館他	男子 1;大崎電気 2;大同特殊鋼 3;琉球コソソ、トヨタ車体 女子 1;私団 2;北國銀行 3;ソニセミコンダクタ、広島メイプル
	第23回 JOCジュニアオリンピックカップ	12/25-28	県営あづま総合体育館他	男子 1;愛知県 2;岐阜県 3;山口県、富山県 女子 1;茨城県 2;山口県 3;沖縄県、大分県
2月	全日本社会人チャレンジ2015	2/6-8	ヒマラヤアリーナ	男子 1;北陸電力 2;HC 岐阜 3;EHC 女子 1;HC 福井 2;フジクラ 3;愛媛選抜
	第39回日本リーグプレーオフ	2/28,3/1	小松総合体育館	女子 1;北國銀行 2;私団 3;広島メイプル 4;ソニセミコンダクタ
3月	第39回日本リーグプレーオフ	3/21,22	駒沢体育館	男子 1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;トヨタ車体 4;琉球コソソ
	第38回全国高等学校選抜大会	3/25-30	カ体ニル豊田他	男子 1;北陸、浦和学院 3;浦添、法政二、四日市工業 女子 1;白梅学園 2;小松市立 3;高松商業、四天王寺
	第10回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子 1;氷見西條中 2;氷見北部中 3;菟野中、平田中 女子 1;明倫中 2;氷見西條中 3;港川中、東久留米西中

2) その他の事業

(1) 日本協会主催、共催大会の管理運営にあたった

- (2) 平成 26 年度競技運営に関する確認を通達として HP 等で周知した
- (3) 平成 26 年度テクニカルデレゲートの任務を HP 等で周知した
- (4) 平成 26 年度チーム・選手・チーム役員登録業務を遂行した
- (5) 日本選手権構想の具体的日程等計画案を示した
- (6) ジャパンオープン他全国大会を利用して競技役員の業務運営の周知を図った
- (7) TD 研修会を各地で開催した
- (8) 競技運営連絡協議会(東京) を開催した
- (9) 国民体育大会正規視察(鹿児島県)を実施した
- (10) リオデジャネイロオリンピックアジア女子予選の開催準備にあたった
- (11) 春の中学生大会の第 11 回以降の開催についての検討を行った

3) 特記事項

- ・全国高等学校選抜大会のトラブル処理及び再発防止策を講じた

3 . 国際に関する事業

1) 日本代表チーム派遣及び国際会議に関する事業

日程	カテゴリー / 参加者	大会名称	開催地
4 月	男女リーグ代表チーム	第 10 回東アジアクラブ選手権	中国・重慶市
	役員	EAHF 会議	中国・重慶市
6 月	女子代表チーム	第 19 回ヒロシマ国際	日本・広島市
	男女代表	日韓定期戦	日本・広島市
	TD/江成		
	男女 U-22	第 2 回東アジア U-22 選手権	香港
	審判員/田淵・河合		
	TD / 仲田		
女子 U-20	第 19 回女子ジュニア世界選手権	クロアチア・コプリブニツァ他	
7 月	女子 U-18	第 5 回女子ユース世界選手権	マケドニア・オフリド
	男子代表	欧州遠征	フランス
	女子代表	欧州遠征	デンマーク
8 月	男子 U-21	第 14 回男子ジュニアアジア選手権	イラン・タブリーズ
	審判員/池淵・檜崎		
	男女大学生	第 22 回世界学生選手権	ポルトガル・ギマランイス
	男女小学生 (U-12)	第 6 回日韓小学生交流	韓国・河南省
	男子 U-16	日韓スポーツ交流 (派遣)	韓国・亀尾市
女子 U-16	日韓スポーツ交流 (派遣)	韓国・馬山市	
9 月	男子 U-19	第 6 回男子ユースアジア選手権	ヨルダン・アンマン
	審判員/本田・田淵		
	男子 U-16	日韓スポーツ交流 (受入)	日本・東京
	男女代表チーム	第 17 回アジア競技大会	韓国・仁川
	審判員/池淵・檜崎 太田・島尻		
	TD/後藤・仲田		
女子 U-16	日韓スポーツ交流 (受入)	日本・神崎市	

11月	男女ビーチ代表	第4回アジアビーチゲームズ	タイ・ブーケット
	TD/仲田、坂本		
1月	審判員/池淵・檜崎	第24回男子世界選手権	カタール・ドーハ
3月	女子代表チーム	第15回女子アジア選手権	インドネシア・ジャカルタ

以上の行事への参加申請手続き・参加費等の精算・渡航手続きなど事務全般

2) 国際会議等ならびに派遣に関する事業

(1) IHF 関係

- ・IHF ムスタファ会長の来日、1964 東京オリンピック記念祝賀会列席、2020 東京オリンピック組織委員会はじめ政府首脳などとのコンタクト対応
- ・IHF 理事会などの議事内容翻訳
- ・IHF に対しての諸連絡と加盟各国連盟との協力関係強化
- ・各種大会や役員・レフェリー派遣業務の連絡調整全般
- ・IHF 研修中の稲福委員からの情報提供
- * IHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡

(2) AHF 関係

- ・AHF 各種委員会に関係委員出席
- ・テクニカルデレゲートならびにレフェリー派遣実施
- ・各カテゴリーのアジア選手権参加のサポート
- * AHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡
- * テクニカルデレゲート・審判・アンチドーピング委員派遣などに関する連絡
- * AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3) EAHF 関係

- ・4月 EAHF 会議(中国・重慶市)
- * EAHF 会議議題・議事録の翻訳
- * EAHF に関する連絡

3) その他の事業

- (1) 2020 東京オリンピック招致活動支援(祝電、礼状、お見舞い等)
- (2) 文部科学省国際人養成プロジェクトに国際委員会から IHF・AHF に稲福委員を研修派遣
新年度文部科学省国際人養成プロジェクトに審判委員会から太田氏を申請したが不合格
- (3) JOC 国際人養成プロジェクトに審判委員会から太田氏を研修派遣中
- (4) 来訪諸国の来日対応(デンマーク SK オーフス、韓国代表)
- (5) 翻訳業務
 - * 大会要綱の翻訳
 - * 海外大会情報の翻訳及び掲示

4. 競技規則(審判)に関する事業

1) 主たる事業 (斜体は国際大会・会議)

月	事業名	開催日程	開催地	概要及び実績
4月	第11回東アジアクラブ選手権大会	4/24~29	中国・重慶市	レフェリー: 河合威廷・白井健を派遣
	第1回競技規則研究委員会	4/12	東京都北区	参加者: 委員4名, 審判部長 レフェリー研修会打合わせおよび競技規則書発行準備

5月	第1回 レフェリーアカデミー	5/3～5	大分県大分市	受講者5名, 講師2名
	審査指導委員会 ブロック審判長会議	5/17～18	愛知県知立市他	参加者: 審査指導委員7名, ブロック審判長7名, 普及指導本部長, 審判部長 A/B級審査会打合わせおよび審査基準の統一他
6月	第19回ヒロシマ国際大会・日韓定期戦2014	6/13～15	広島県広島市	競技委員長: 競技本部長, 大会審判長: 審判部長 レフェリー: 池淵智一, 檜崎潔, 佐々木皇介を派遣
	B級公認審判員審査会 〔関東地区〕	6/20～22	東京都新宿区他	受験者13名 審査担当4名を派遣
	全日本大会担当レフェリー研修会	6/28～29	東京都北区	受講者: 132名, 運営スタッフ: 9名
	第2回東アジア U-22選手権大会	6/29～7/6	香港	TD: 仲田稔 AHF/PRC 委員 レフェリー: 田淵元雄・河合威廷を派遣
7月	A/B級公認審判員審査会 〔西地区〕	7/11～13	高知県高知市他	受験者A級18名・B級15名 審査担当6名を派遣
	A/B級公認審判員審査会 〔東地区〕	7/11～13	福島県本宮市	受験者A級9名・B級14名 審査担当4名を派遣
	第14回男子ジュニア アジア選手権大会	7/31～8/15	イラン・ タブリーズ	レフェリー: 池淵智一・檜崎潔(AHF指名)を派遣
8月	JHAレフェリーコース 前期研修会	8/11～13	滋賀県長浜市他	受講者9名, 講師3名 講義ならびに実技研修を実施
	第2回 ユースオリンピック	8/16～28	中国・南京市	レフェリー: 太田智子・島尻真理子(IHF指名)を派遣
	トップリーグ連携機構 審判長会議	8/22～23	東京都北区	審判部長出席
	トップリーグ連携機構 審判研修会	8/23～24	東京都北区	受講者: 4名
	日本リーグ コーチ・レフェリー合同研修会	8/30～31	東京都北区	受講者: チーム関係者20名, レフェリー45名, JHL オフィシャル・TD10名
9月	第6回男子ユース アジア選手権大会	9/4～13	ヨルダン・ アンマン	レフェリー: 本田昭太・田淵元雄(AHF指名)を派遣
	A/B級公認審判員審査会 〔中地区〕	9/12～14	愛知県一宮市	受験者A級13名・B級15名 審査担当6名を派遣
	第2回 レフェリーアカデミー	9/13～14	東京都	受講者4名, スタッフ・講師4名
	第17回 アジア競技大会	9/19～10/4	韓国・仁川	TD: 後藤登 AHF/COC 委員, 仲田稔 AHF/PRC 委員 レフェリー: 池淵智一・檜崎潔, 太田智子・島尻真理子(いずれもAHF指名)を派遣
	男子U-16 日韓スポーツ交流試合	9/20	埼玉県三郷市	レフェリー: 高橋恭文・塚本光を派遣
10月	第3回 レフェリーアカデミー	10/24～26	福岡県宗像市	受講者4名, スタッフ・講師2名
	女子U-16 日韓スポーツ交流試合	10/25	佐賀県神埼市	レフェリー: 川端祐貴・貞包圭介を派遣
11月	第1回審判部会	11/9	東京都町田市	参加者: 競技本部長, 審判部長, 副部長, 審査指導 委員長, 競技規則研究委員長, 総務委員長
	第4回 アジアビーチゲームズ	11/12～21	タイ・プーケット	TD: 仲田稔 AHF/PRC 委員を派遣
	全日本学生選手権にお けるレフェリー研修会	11/23	岐阜県岐阜市	講師: Attila Heim〔HUN〕 受講者37名
12月	トップレフェリー研修 会	12/26	愛知県名古屋市	参加者: 全日本総合選手権担当レフェリー18名, 審 判スタッフ3名, 競技本部長, 審判部長, 副部長
	第2回 競技規則研究委員会	12/26～28	愛知県名古屋市	参加者: 委員4名, 審判部長, 副部長
H 27	NTS センタートレーニング	1/6 1/12	東京都北区	両日とも2名のレフェリーを派遣
	第2回審判部会	1/10	東京都町田市	参加者: 競技本部長, 審判部長, 副部長, 審査指導 委員長, 競技規則研究委員長, 総務委員長

1月	第24回 男子世界選手権大会	1/11～2/1	カタール・ドーハ	レフェリー：池淵智一・檜崎潔(IHF指名)を派遣
	第3回審判部会	1/23～24	東京都北区	参加者：競技本部長，審判部長，副部長，審査指導委員長，総務委員長
	平成26年度 審判部合同委員会	1/24～25	東京都北区	参加者：専務理事，競技本部長，審判部長・副部長，各ブロックおよび連盟審判長，審判部各専門委員会委員長，普及委員会・小学生およびビーチ担当者計24名 平成26年度活動の総括，平成27年度活動方針の検討他。
2月	社会人連盟レフェリー コース(B級審査会)	2/5～7	岐阜県岐阜市	受講者1名，講師2名 講義ならびに競技規則筆記試験・実技試験を実施
	第4回 レフェリーアカデミー	2/28～3/1	愛知県豊田市	受講者5名，スタッフ・講師3名
3月	JHAレフェリーコース 後期研修会	3/20～22	福井県永平寺町 他	受講者9名，講師4名 講義ならびに実技研修・競技規則筆記試験を実施し，前期後期を総合判定して5名をB級審判員に認定した。
	コーチ・レフェリー シンポジウム2015	3/21～22	東京都世田谷区	担当者を派遣し，指導委員会と共同で開催した。

2) その他の事業

- (1) 文書の受付発送などの諸手続きならびに審判員登録期限厳守の徹底（総務専門委員会）
- (2) 審判研修会の企画・運営および資料作成（競技規則研究専門委員会・視聴覚専門委員会）
- (3) 各全日本大会における審判技術の実態把握（審判部長・副部長，連盟審判長）
- (4) 各全日本大会において競技規則筆記試験を実施（連盟審判長，ブロック審判長）
- (5) 国際情報収集と競技規則書の企画・作成（国際専門委員会・競技規則研究専門委員会）
- (6) 他委員会などとの連携強化（審判部長・副部長，日本リーグ審判専門委員会）

3) A/B級公認審判員審査結果

	平成25年度		平成26年度	
	A級	B級	A級	B級
審査申請者	43名	66名	43名	69名
書類不備	1名	2名	2名	6名
欠席	3名	7名	1名	2名
筆記試験不合格	3名	7名	0名	1名
実技試験不合格	7名	8名	7名	15名
体力試験不合格	0名		0名	
合格者	31名	43名	33名	45名

筆記・実技ともに不合格 A級2名 B級1名

4) 公認審判員登録状況 ()内は女性

級	平成25年度	平成26年度
終身	101名 (0名)	100名 (0名)
国際	15名 (2名)	13名 (2名)
A級	277名 (8名)	290名 (10名)
B級	445名 (23名)	448名 (27名)
C級	810名 (111名)	858名 (110名)
D級	1534名 (291名)	1586名 (317名)
計	3182名 (435名)	3295名 (466名)

5. 競技力向上に関する事業

《強化》

1) 強化関連会議・施策など

- 4月1日(火) 強化委員会
 4月14日(月) 強化戦略合同会議
 6月22日(日) 強化会議
 10月25日(土) 東京五輪強化会議
 10月29日(水) 強化委員会
 10月31日(金) 強化委員会
 12月29日(月) 強化委員会
 2月1日(日) 強化委員会・強化スタッフ会議
 3月5日(木) 強化スタッフ会議
 2019・20 強化施策案を策定した。
 海外強化拠点(テニスコート・フィットネス)への派遣延期(直前合宿後テロ発生につき延期)
 「女性競技種目戦略的強化プログラム」(文部科学省直轄事業)進行中。
 平成27年度強化スタッフを選定した。
 平成27年度強化施策を策定した。
 JOCにターゲットエイジ「育成・強化プロジェクト」の実績報告を提出した。
 平成26年度「ユースアスリート助成」の候補者を選定した。
 平成27年度「JOC強化指定選手」の選出、JOCへ提出

2) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日程	場所	結果
男子代表	日韓定期戦 2014	6/14	日本・広島県	男子 JPN 22-24 KOR
女子代表	第19回ヒロシマ国際	6/13-15	日本・広島県	1: KOR 2: JPN 3: 広島メイプル 4: SK オーフス(フランス)
男女 U-22	第2回東 U-22 東アジア選手権	6/29-7/6	香港	男子 1: KOR 2: JPN 3: CHN 4: TPE 5: HKG 女子 1: KOR 2: JPN 3: CHN 4: TPE 5: HKG 6: MAC
女子 U-20	第19回女子ジュニア世界選手権	6/28-7/13	クロアチア	1: KOR 2: RUS 3: DEN 4: GER 5: FRA 6: ROU 7: HUN 8: NED 9: NOR 10: CRO 11: CZE 12: SRB 13: SWE 14: SLO 15: BRA 16: POR 17: JPN 18: URU 19: CHN 20: ARG 21: ANG 22: TUN 23: KAZ 24: COD
女子 U-18	第5回女子ユース世界選手権	7/20-8/3	マケドニア	1: ROU 2: GER 3: DEN 4: MNE 5: KOR 6: NED 7: BRA 8: RUS 9: SWE 10: CRO 11: POR 12: ARG 13: NOR 14: JPN 15: HUN 16: FRA 17: MKD 18: TUN 19: PAR 20: ANG 21: KAZ 22: CHN 23: CGO 24: UZB
男子 U-21	第14回男子ジュニアアジア選手権	8/2-8/14	イラン・タブリーズ	1: QAT 2: KOR 3: JPN 4: IRI 5: KSA 6: KUW 7: SYR 8: IRQ 9: BRN 10: UZB 11: OMA
男女 U-24	第22回世界学生選手権	8/3-8/10	ポルトガル	男子 1: POR 2: BRA 3: ESP 4: RUS 5: EGY 6: ROU 7: CZE 8: TPE 9: JPN 10: TUR 11: TUR 女子 1: BRA 2: RUS 3: KOR 4: ROU 5: EPS 6: JPN 7: CZE 8: MEX 9: POL 10: POR 11: URU

男子U-16	日韓スポーツ交流 2014 (派遣)	8/29-9/3	韓国・亀尾市	JPN 20 (12-13, 8-11) 24 KOR
男子U-16	日韓スポーツ交流 2014 (受入)	9/18-9/23	日本・東京都	JPN 28 (14-11, 14-9) 20 KOR
女子U-16	第18回日韓スポーツ 交流(派遣)	8/31-9/5	韓国・馬山市	JPN 20 (8-16, 12-15) 31 KOR
女子U-16	第18回日韓スポーツ 交流(受入)	10/22-10/27	日本・佐賀県	JPN 24 (11-11, 13-8) 19 KOR
男子U-19	第6回男子ユース アジア選手権	9/6-9/15	ヨルダン・アン マン	1:KOR 2:QAT 3:JPN 4:BRN 5:KUW 6:IRQ 7:IRI 8:JOR 9:KSA
男女代表	第17回アジア競技 大会	9/19-10/4	韓国・仁川市	男子 1:QAT 2:KOR 3:BRN 4:IRI 5:KUW 6:OMA 7:KSA 8:TPE 9:JPN 10:CHN 11:HKG 12:MGL 13:UAE 14:IND 女子 1:KOR 2:JPN 3:KAZ 4:CHN 5:UZB 6:HKG 7:THA 8:IND 9:MDV
女子代表	第15回女子アジア 選手権	3/14-3/23	インドネシア	1:KOR 2:JPN 3:CHN 4:KAZ 5:UZB 6:IRI 7:IND 8:HKG 9:INA

3) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
男子代表	欧州遠征	8/4-8/20	フランス	21名(役員3名、選手18名)
女子代表	欧州遠征	7/22-8/5	デンマーク	21名(役員4名、選手17名)

4) 国内強化合宿(男女代表)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子代表	第1回 ANTC	4/13-4/21	30名(役員4名、選手26名)		飯田純一郎
	第2回 ANTC	4/27-5/1	30名(役員4名、選手26名)		飯田純一郎
	第3回 ANTC	5/7-5/12	29名(役員4名、選手25名)		飯田純一郎
	第4回 ANTC	5/22-5/26	23名(役員4名、選手19名)		飯田純一郎
	第5回 ANTC	6/5-6/12	22名(役員4名、選手18名)		飯田純一郎
	第6回 紋別(中止)	7/11-7/15	24名(役員3名、選手21名)		飯田純一郎
	第7回 ANTC	7/29-8/3	23名(役員6名、選手17名)		飯田純一郎
	第8回 ANTC	9/9-9/17	21名(役員5名、選手16名)		飯田純一郎
女子代表	第1回 ANTC	4/6-4/12	33名(役員8名、選手25名)		高野内俊也 佐野裕美
	第2回 ANTC	5/26-6/11	31名(役員9名、選手22名)	永澤雷太	高野内俊也 佐野裕美
	第3回 ANTC	6/16-6/21	28名(役員6名、選手22名)		高野内俊也 佐野裕美
	第4回 富山県	7/12-7/22	30名(役員8名、選手17名)		高野内俊也 佐野裕美
	第5回 ANTC	9/1-9/17	25名(役員9名、選手16名)		高野内俊也 佐野裕美
	第6回 熊本県	11/9-11/11	25名(役員6名、選手19名)	-	高野内俊也
	第7回 石川県	11/29-12/2	28名(役員8名、選手20名)		高野内俊也 木村慎之介

	第 8 回 ANTC	1/2-1/5	25 名(役員 5 名、選手 20 名)		高野内俊也 花岡美智子 井口郁子
	第 9 回 ANTC	2/2-2/4	23 名(役員 5 名、選手 18 名)		高野内俊也 佐野裕美
	第 10 回 ANTC	3/2-3/11	25 名(役員 7 名、選手 18 名)	-	高野内俊也 佐野裕美

5) 国内強化合宿 (男女 under 代表)

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 U-21	第 1 回 ANTC	5/23-5/25	24 名(役員 5 名、選手 19 名)		島俊也
	第 2 回 ANTC	5/30-6/1	24 名(役員 5 名、選手 19 名)		島俊也
	第 3 回 愛知県	6/6-6/8	23 名(役員 4 名、選手 19 名)		-
	第 4 回 ANTC	6/13-6/15	22 名(役員 5 名、選手 17 名)		新井康希
	第 5 回カタール国際	6/20-6/27	20 名(役員 4 名、選手 16 名)		島俊也
	第 6 回 ANTC	7/4-7/6	25 名(役員 7 名、選手 18 名)		島俊也
	第 7 回 ANTC	7/11-7/13	25 名(役員 7 名、選手 18 名)		島俊也
	第 8 回 愛知県	7/18-7/20	25 名(役員 7 名、選手 18 名)		島俊也
	第 9 回 ANTC	7/25-7/28	24 名(役員 6 名、選手 18 名)		島俊也
男子 U-19	第 1 回 ANTC	4/21-4/25	29 名(役員 4 名、選手 25 名)		
	第 2 回 ANTC	5/17-5/21	25 名(役員 5 名、選手 20 名)		大岡恒雄
	第 3 回 ANTC	7/11-7/15	26 名(役員 7 名、選手 19 名)		大岡恒雄
	第 4 回 ANTC	8/7-8/10	26 名(役員 7 名、選手 19 名)		大岡恒雄
	第 5 回 ANTC	8/27-8/31	25 名(役員 6 名、選手 19 名)		大岡恒雄
男子 U-16	第 1 回 ANTC	5/16-5/19	29 名(役員 5 名、選手 24 名)		市川央人
	第 2 回 ANTC	6/26-6/29	23 名(役員 7 名、選手 16 名)		市川央人
	第 3 回 ANTC	8/27-8/29	23 名(役員 7 名、選手 16 名)		市川央人
女子 U-20	第 1 回 ANTC	5/26-5/30	21 名(役員 3 名、選手 18 名)		
	第 2 回 ANTC	6/18-6/24	23 名(役員 5 名、選手 18 名)	有田忍	花岡美智子
女子 U-18	第 1 回 ANTC	4/11-4/16	29 名(役員 3 名、選手 26 名)		
	第 2 回 ANTC	5/9-5/15	31 名(役員 3 名、選手 28 名)		-
	第 3 回 佼成学園女子高校	6/24-6/29	21 名(役員 5 名、選手 16 名)	貝沼圭吾	宿利政生
	第 4 回 ANTC	7/11-7/17	23 名(役員 7 名、選手 16 名)	貝沼圭吾	宿利政生
女子 U-16	第 1 回 佼成学園女子高校	6/24-6/27	20 名(役員 4 名、選手 21 名)		内田春菜
	第 2 回 ANTC	8/27-8/31	22 名(役員 6 名、選手 16 名)		内田春菜
	第 3 回 佐賀県	10/20-10/21	20 名(役員 4 名、選手 16 名)		内田春菜

6) ドクター・トレーナー帯同 (遠征・大会)

チーム名	遠征・大会名	日 程	場 所	ドクター	トレーナー
男子代表	日韓代表国際交流 定期戦 2014	6/14	日本・広島市		飯田純一郎
女子代表	第 19 回ヒロシマ国際	6/13-15	日本・広島県		高野内俊也
男子 U-22	第 2 回東アジア U-22 選手権	6/29-7/6	香港		堀内貴志
女子 U-22	第 2 回東アジア U-22 選手権	6/29-7/6	香港		川崎久美子
女子 U-20	第 19 回女子ジュニア世界選手権	6/28-7/13	クロアチア	有田 忍	花岡美智子
女子 U-18	第 5 回女子ユース世界選手権	7/20-8/3	マケドニア	貝沼圭吾	宿利政生
男子 U-21	第 14 回男子ジュニアアジア選手権	8/2-8/14	イラン	有田 忍	島俊也
男女 U-24	第 22 回世界学生選手権	8/3-8/10	ポルトガル		永井正之 佐野裕美
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2014 (派遣)	8/29-9/3	韓国・亀尾市		市川央人
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2014 (受入)	9/18-9/23	日本・東京都		市川央人
女子 U-16	第 18 回日韓スポーツ交流(派遣)	8/31-9/5	韓国・馬山市		内田春菜

女子U-16	第18回日韓スポーツ交流(受入)	10/22-10/27	日本・佐賀県		内田春菜
男子U-19	第6回男子ユースアジア選手権	9/6-9/15	ヨルダン	大西信三	大岡恒雄
男女代表	第17回アジア競技大会	9/19-10/4	韓国・仁川市		高野内俊也 飯田純一郎
女子代表	第15回女子アジア選手権	3/14-3/23	インドネシア	永澤雷太	高野内俊也
男子代表	欧州遠征	8/4-8/20	フランス		飯田純一郎
女子代表	欧州遠征	7/22-8/5	デンマーク		高野内俊也

7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：愛知県選抜 女子優勝：茨城県選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 部井久アダム勇樹(福岡県選抜：多々良中学校)

女子 該当者なし

8) 日本代表チーム

- (1)男子代表がアジア大会に臨んだが、アジア選手権同様に9位という結果で終わった。
- (2)女子代表が第15回女子アジア選手権にて2位となり、世界選手権への出場権を獲得した。結果はアジア大会と同じであったが、韓国以外に対しては圧倒的な実力を示すことが出来た。
- (3)アジア大会の結果を受け松井男子代表監督の辞任を決定し、新たに岩本男子代表監督就任を決定した。
- (4)大会の成績は次のとおりであった。

第17回ヒロシマ国際(男・女)兼 日韓定期戦2014

6月13日(金)～15日(日) 広島市東区スポーツセンター

男子 日本代表、韓国代表

女子 日本代表、広島メイプルレッズ、韓国代表、SKオーフス(デンマーク)

男子順位 1:韓国代表、2:日本代表

女子順位 1:韓国代表、2:日本代表、3:広島メイプルレッズ、4:SKオーフス

男女とも韓国代表が優勝、男女とも日本代表は前半を優位に試合を進めるも後半に失速した。

第17回アジア競技大会

9月19日(金)～10月4日(土) 韓国・仁川

男子参加国

A組 サウジアラビア、バーレーン、モンゴル

B組 イラン、クウェート、香港

C組 カタール、中国、オマーン、UAE

D組 日本、インド、韓国、チャイニーズタイペイ

日本は予選リーグ初戦に韓国に敗れ、続く第2戦チャイニーズタイペイ戦でも敗れたことにより決勝ラウンドへの進出は出来ず、9-12位決定戦へと回った。そこでは格下のモンゴル、香港を圧倒し中国との対戦では辛勝し、9位という成績で大会を終えた。

日本は松井監督の指揮のもと「早くて速いハンドボール」を展開したが、韓国戦31失点、チャイニーズタイペイ戦31失点、中国戦31失点とディフェンスが不安定であり、勝ち上がることが出来なかった。今後はオフェンスでの速さを継続しつつ、ディフェンス強化が課題である。

予選リーグ 日本24-31韓国、日本28-31チャイニーズタイペイ、日本47-12インド
9-12位決定リーグ

日本 50-6 モンゴル、日本 41-17 香港、日本 32-31 中国
最終結果 優勝:カタル、2 位:韓国、3 位:バーレーン、4 位:イラン、5 位:クウェート
6 位:オマーン、7 位:サウジアラビア、8 位:チャイニーズタイペイ、
9 位:日本、10 位:中国、11 位:香港、12 位:モンゴル、13 位:UAE、
14 位:インド

女子参加国

A 組 中国、タイ、インド、韓国

B 組 日本、カザフスタン、香港、モルディブ、ウズベキスタン

日本は香港、モルディブ、ウズベキスタンを全く寄せ付けない内容で序盤戦を終え、迎えたカザフスタン戦では前半の中盤以降に優位を試合を進め、後半は追い上げにあうものの前半同様に勝負どころの中盤以降に地力を発揮して勝利し、予選グループ 1 位で準決勝へコマを進めた。準決勝の対戦相手は中国であったが、前半中盤までは互角の試合展開であったが中盤以降に日本がスパートをかけ 17-10 と 7 点リードで折り返した。後半立ち上がりも日本ペースは変わらず中盤で 25-15 とリードを広げて勝利を決定づけた。終盤連続失点があったものの内容では圧勝であった。迎えた決勝戦、韓国との対戦であった。立ち上がりから日本は韓国の高さとパワーに圧倒され劣勢に回る。前半を 5-17 という大差でリードされ折り返すこととなった。地元応援団の大歓声もあり、日本チームは自分たちのプレースタイル・ストロングポイントを忘れたようなプレーぶりであった。後半は本来の姿を取り戻しプレーしたものの前半の 12 点差を逆転する力はなく、19-29 で敗れ銀メダルという結果で大会を終えた。今後は連戦にも耐えうるコンディション作りと戦術の発展性を確保することが課題である。

第 15 回女子アジア選手権

3 月 14 日(土)~23 日(月) インドネシア・ジャカルタ

参加国

A 組 日本、韓国、イラン、インド

B 組 中国、カザフスタン、ウズベキスタン、インドネシア、香港

日本は大会序盤は格下のイラン、インドに圧勝して迎えた韓国との対戦。前半は日本のオフェンスがよく機能して得点に成功していたこともあり、互角の展開で折り返した。後半は日本の 2 連取でスタート。一気に逆転し 4 分で 18-17 とした。ここで韓国が防御を消極的な 6 : 0 に変更。日本は攻撃で効果的なシュートに持ち込めなくなってしまい、つくったチャンスも相手 GK に弾かれてしまう。その間、相手の力強い割り込みや大型ポストの押し込みで 7 MT と退場が続き、9 連続失点し 20 分で 26-18 まで一気に離されてしまい、最終的には 20-32 で敗れ予選リーグ 2 位となり準決勝はカザフスタンと対戦することが決まった。準決勝のカザフスタン戦は、日本のスローオフでスタート。相手の防御は 5 : 1 でトップが活発に動くシステム。日本はアウトスペースを強く攻め、カットイン、サイド、ポストとバランス良く得点できる理想的な OF を展開していく。守っては LB 側に特に強く牽制をいれる積極的な防御でスタートする。しかし、警戒していたエースを捕まえきれずに 10 分で 7 - 6、うちエースの得点が 4 点でエースのフォローからプラスワンになる得点が 2 点という流れとなる。そこで、エースのマーク以外はスイッチを多用するシステムに変更した。ここからミスを誘うことに成功し 3 連取して 16 分で 10 - 6。退場者をだす場面もあったが 21 分から 2 連取・3 連取で 17 - 11 で前半を終える。後半は相手の強くて重いプレーに負けないで足を運ぶことなどを念頭にスタート。8 分までに 2 連続失点を 2 度うけてしまい 16 - 20 まで詰められる。し

かしここからしつこい守りで相手のミスを誘い、13分までに4連続得点で24 - 16とする。さらに19分から25分に決定的な6連打で32 - 19とした。その後もコートに入るメンバーが次々に活躍し37 - 21で終了、世界選手権の出場権と決勝での韓国との再戦のチケットを獲得した。前半は防御においてCBに対しマッチアップする場所が低く、展開される段階でさらに低くなってしまい、間を取られるケースを多発させ、そこからのポストや、確率の高いサイドなどにつながられてしまった。また、戻りの局面での選手交代の際を巧みに狙われ攻撃の起点をつくられてしまった。立ち上がりで0 - 2とされ、1 - 2とするも1 - 6とされてしまう。攻撃においては相手防御の裏を攻め、ポスト、サイドへの展開が連動するようになり4 - 8まで追い上げる。しかし、その後韓国はエリア際を固めた6 : 0に変更。間を割ることができず攻撃が停滞し5 - 15まで離されてしまう。攻守共に修正をはかり8 - 16まで戻すが、その後2連取され前半を8 - 18とされる。後半開始後も効果的なシュートチャンスがなかなか作り出せず3連取され8 - 21となる。その後、一進一退となり13 - 25まで続くが、3連取を許し、13 - 28とされる。そこから意地を見せ3連取して流れをつかむが、ここで韓国は大型で重量のあるポストプレーヤーを2枚入れる攻撃に変更、これに押し込まれ次々と7MTとされてしまう。その後も、防御、攻撃ともに工夫をするが点差を縮めるには至らず22 - 36で敗戦となった。結果的にはアジア大会同様の第2位で大会を終えることとなったが、韓国に次ぐ2番手グループの中では差を開くこととなったことや予選リーグでの韓国戦の前半の戦い方など成果はあった。今後は韓国に特化したゲーム構想を確立し実践できる力をつけることが課題である。

予選リーグ 日本 45 (24-5, 21-6) 11 イラン
 日本 51 (30-4, 21-4) 8 インド
 日本 20 (15-16, 5-16) 32 韓国
 準決勝 日本 37 (17-11, 20-10) 21 カザフスタン
 決勝 日本 22 (8-18, 14-18) 36 韓国
 最終結果 優勝:韓国、2位:日本、3位:中国、4位:カザフスタン、5位:ウズベキスタン、
 6位:イラン、7位:インド、8位:香港、9位:インドネシア
 (上位3チームは第22回女子世界選手権に出場)

9) under 代表チーム

- (1)年齢カテゴリー別の体制でNTS・JHA ジュニアアカデミーと連携して、発掘・育成・強化へと連動した計画的な選手の養成ができた。結果としてU-21男子代表が30年ぶりの男子ジュニア世界選手権の出場権獲得、U-19男子代表が初の男子ユース世界選手権の出場権獲得となった。
- (2)カテゴリー強化合宿などによって指導育成した結果、大会の成績は次のとおりであった。
 - 第2回 U-22 東アジア選手権(男女)
 - 6月29日(日)~7月6日(日) 香港
 - 男子 日本、韓国、中国、チャイニーズタイペイ、香港、マカオ
 - 女子 日本、韓国、中国、チャイニーズタイペイ、香港
 - 男子結果 1位:韓国 2位:日本 3位:チャイニーズタイペイ 4位:香港
5位:中国 6位:マカオ
 - 女子結果 1位:韓国 2位:日本 3位:チャイニーズタイペイ 4位:中国 5:香港
 今大会は、日本代表として男子は「東日本学生選抜」、女子は「関西学生選抜」の派遣となった。男女とも韓国の後塵を浴びることとなった。「個」で劣る日本は「組織力」で対抗するものの、急造チームということもあり強い個に対抗するまでの力ではなかった。前回大会で感じた“技術云々よりフィジカルの違いが大きい”についての対策がされな

いままの出場となってしまった。

第14回女子ジュニア世界選手権

6月28日(土)～7月13日(日) クロアチア・コソボ、ドイツ、韓国、カザフスタン
参加国

- A組 ノルウェー、韓国、クロアチア、チェコ、ウルグアイ、カザフスタン
- B組 デンマーク、オランダ、ドイツ、アンゴラ、セルビア、アルゼンチン
- C組 ハンガリー、フランス、スウェーデン、日本、コンゴ、ポルトガル
- D組 ロシア、ルーマニア、スロベニア、ブラジル、中国、チュニジア

予選リーグ初戦であるハンガリー戦では、守りで高いラインづくりを意識しましたが、機動力及び連動性を表現することが出来ず、逆にディフェンスの間が広がったことで、身体を預けながらの1対1で失点する場面が多くあり、大敗する結果となった。以後、フランス戦、ポルトガル戦と徐々に修正されてきたものの勝ちきることが出来なかった。そして、予選リーグ最終戦はスウェーデンとの対戦であった。この試合に勝てば決勝トーナメント進出ということでチームとしての戦い方を再確認し臨んだ。試合前半はディフェンスがよく機能し速攻につなげられ得点を重ね7点リードで折り返す。後半は相手の戦術変更への対応が遅れ、またスタミナ不足もあり引分けとなり決勝トーナメント進出を逃す結果となった。今後の課題は大型選手との国際経験を多く積み、対応力を付けることである。

予選リーグ 日本 19(10-20,9-17)37 ハンガリー
日本 22(9-16,13-17)33 フランス
日本 30(16-10,14-17)27 コンゴ
日本 28(15-21,13-13)34 ポルトガル
日本 26(16-9,10-17)26 スウェーデン
日本は予選グループC組5位でプレジデントカップへまわる。

P-CUP1 回戦

日本 28(15-12, 13-15)27 中国

P-CUP17・18 位決定戦

日本 29(16-14, 13-14)28 ウルグアイ

最終結果 優勝:韓国、2位:ロシア、3位:デンマーク、4位:ドイツ、5位:フランス、
6位:ルーマニア、7位:ハンガリー、8位:オランダ、9位:ノルウェー、
10位:クロアチア、11位:チェコ、12位:セルビア、13位:スウェーデン、
14位:スロベニア、15位:ブラジル、16位:ポルトガル、17位:日本、
18位:ウルグアイ、19位:中国、20位:アルゼンチン、21位:アンゴラ、
22位:チュニジア、23位:カザフスタン、24位:コンゴ

第5回女子ユース世界選手権

- 7月20日(日)～8月3日(日) マケドニア・スコピエ、オフリド、ストルミツァ
- A組 スウェーデン、韓国、カザフスタン、ブラジル、チュニジア、オランダ
 - B組 ロシア、ノルウェー、日本、ハンガリー、パラグアイ、コンゴ
 - C組 デンマーク、ルーマニア、マケドニア、ウズベキスタン、ドイツ、アルゼンチン
 - D組 ポルトガル、モンテネグロ、クロアチア、アンゴラ、中国、フランス

予選リーグは、初戦のパラグアイと第2戦のコンゴに勝利することが最低目標であることを選手たちがよく理解してくれて、しばしば生じる審判の不可解な判定にもめげず、勝利することが出来た。第3戦からの欧州勢（ノルウェー、ロシア、ハンガリー）との戦いは、勝敗以上に良い試合だった。ノルウェー戦を引き分けたことは、ノルウェーがロンドン五輪のメダル獲得国だったせいか現地のメディアやファンを驚かせたようだった。選手はその結果に自信を持ち、ロシア、ハンガリーとの善戦を演じた。予選リーグ突破の要因は、第一に効果的なディフェンスが出来たこと、第二に頻繁な選手交代で終盤のスタミナ切れが起きなかったことと分析した。エイトファイナルの韓国戦では出鼻を挫かれ、それが後々まで響き敗戦となった。韓国は総勢9名のスタッフを帯同し、分析力を発揮していた。日本チームも完全に丸裸状態とされていた。今後の課題は、世界大会に臨む確固たるグランドデザインを持つことではないか。

予選リーグ 日本 29(16-12,13-13)25 パラグアイ
 日本 36 (19-9,17-18)27 コンゴ
 日本 33 (18-15,15-18)33 ノルウェー
 日本 30 (17-16,16-14)33 ロシア
 日本 26 (10-14,16-13)27 ハンガリー
 日本は予選グループB組4位で決勝トーナメント進出。

決勝トーナメント 1回戦
 日本 34 (12-22, 22-20) 42 韓国

9-16位決定予備戦
 日本 32 (14-20, 18-18) 38 ポルトガル

13-16位決定予備戦
 日本 32 (14-10, 18-16) 26 フランス

13・14位決定戦
 日本 30 (15-14, 15-20)34 ノルウェー

最終結果 優勝:ルーマニア、2位:ドイツ、3位:デンマーク、4位:モンテネグロ、
 5位:韓国、6位:オランダ、7位:ブラジル、8位:ロシア、9位:スウェーデン、
 10位:クロアチア、11位:ポルトガル、12位:アルゼンチン、13位:ノルウェー、
 14位:日本、15位:ハンガリー、16位:フランス、17位:マケドニア、
 18位:チュニジア、19位:パラグアイ、20位:アンゴラ、21位:カザフスタン、
 22位:中国、23位:コンゴ、24位:ウズベキスタン

第14回男子ジュニアアジア選手権兼2015WC予選

8月2日(土)~14日(木) イラン・タブリーズ

参加国

A組 カタール、サウジアラビア、日本、ウズベキスタン、シリア、オマーン

B組 韓国、クウェート、バーレーン、イラク、イラン、

ユースからジュニアと続いての世界選手権出場は初めてで、今後の強化においても意義のある結果で、世界大会ではベスト16以上を目指せるチームになったのではとないかと感じる。これからユース、ジュニアを含めたアンダーカテゴリーの強化はますます必要で、将来代表が強くなる為の大きなポイントである。今大会では、主力選手のけがの回復が思わしくなく、各試合で波のあるプレーだったこと、準決勝の韓国戦前日に2~3人の選手が原因不明の嘔吐によりチームがベストコンディションになれなかったことなどを考えると、優勝を十分に狙えたのではと大変残念であった。この大会からアジアの

今後を見てみると、帰化選手を積極的に登用してシニアとその下の指導を一貫させているカタール、この強化から再び上昇した韓国が最大のライバルとなり、他にサウジアラビア、イランといった国々が中心になってくるのではないかと考える。日本の課題は、長期・短期的に「個」の育成をテーマにした一貫した指導を行っていくことと考える。

予選リーグ

日本 18 (8-12, 10-14) 26 カタール
日本 33 (14-10, 19-17) 27 サウジアラビア
日本 35 (15-10, 20-13) 23 シリア
日本 31 (17-12, 14-7) 19 ウズベキスタン
日本 38 (19-6, 19-6) 12 オマーン

日本は予選グループ A 組 2 位で準決勝進出。

準決勝 日本 25 (11-14, 14-18) 32 韓国

3 位決定戦

日本 33 (16-16, 17-16) 32 イラン

最終結果 優勝:カタール、2 位:韓国、3 位:日本、4 位:イラン、5 位:サウジアラビア、
6 位:クウェート、7 位:シリア、8 位:イラク、9 位:バーレーン、
10 位:ウズベキスタン、11 位:オマーン

1985 年以来 30 年振りの 2015 年世界選手権出場権獲得

第 6 回男子ユースアジア選手権兼 2015WC 予選

9 月 6 日(土)~15 日(月) ヨルダン・アンマン

参加国

A 組 カタール、バーレーン、サウジアラビア、イラン、クウェート

B 組 日本、韓国、イラク、ヨルダン

大会前に、日本代表の使命として「アジアチャンピオン」になる事を改めて目標として掲げ、予選リーグ B 組の試合が始まった。イラク、ヨルダンに対しては緊張しながらも地力を発揮し、大差で勝利することが出来た。迎えた予選リーグ最終戦の韓国戦においては前半を 3 点リードで折り返し、「歴史を塗り替えるチャンス」が来たと思われたが、試合結果は 3 点差での敗戦となった。大きく力の差を感じる内容ではなかったものの、追い込まれた時の精神的な差を感じた。準決勝ではカタールとの対戦となり、前半は積極的なディフェンスもあり 2 点リードで折り返すものの、後半は強引な相手プレーに圧倒されることもあり 6 点差で敗戦となった。3 位決定戦ではバーレーンを相手に、準決勝での敗戦を引きずることもなく、逆に高い闘争心と集中力を持って戦い、前半を 7 点差リードで折り返した。後半も相手に流れが傾きかけた場面でも浮足立つということもなく、終わってみれば 31 対 23 の 8 点差での勝利となり、世界選手権の出場権獲得となった。今後の課題としては、いかなる場面（後半の勝負どころ）であっても実力（フィジカルも含める）を発揮できる「個」を鍛え上げることである。

予選リーグ

日本 32 (15-14, 17-8) 22 イラク
日本 38 (20-3, 18-8) 11 ヨルダン
日本 33 (18-15, 15-21) 36 韓国

日本は予選グループ B 組 2 位で準決勝進出。

準決勝 日本 19 (13-11, 6-15) 26 カタール

3 位決定戦

日本 31 (16-9, 15-14) 23 バーレーン

最終結果 優勝:韓国、2位:カタール、3位:日本、4位:バーレーン、5位:クウェート、
6位:イラク、7位:イラン、8位:ヨルダン、9位:サウジアラビア
2015年世界選手権出場権獲得

日韓スポーツ交流 2013 (男子)

派遣 8月29日(金)~9月3日(水) 韓国・亀尾市

受入 9月18日(木)~23日(火) 東京 ANTC・埼玉県 三郷市総合体育館

親善試合結果 日本 20-24 韓国 (韓国開催)

日本 28-20 韓国 (日本開催)

第16回日韓スポーツ交流 (女子)

派遣 8月31日(日)~9月5日(金) 韓国・馬山市

受入 10月22日(水)~27日(月) 佐賀県神埼市 トヨタ紡織九州クレインアリーナ

親善試合結果 日本 20-31 韓国 (韓国開催)

日本 24-19 韓国 (日本開催)

10) 分析活動および体力向上策(情報科学委員会)

情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターと共同して、ITCを活用した映像データライブラリ(スマートシステム)の運用を行った。分析活動においては、アジア競技大会にて、自チームと相手チームに対する分析活動を行った。特に現地にて、先述したスマートシステムを用いて、効率よく分析映像を選手たちに提示することができた。また、ゲームでの基本的な分析項目の策定を行った。

体力向上のための事業としては、NTSセンタートレーニングでの体力測定値の分析を行い、中高生のトップレベルの体力値についての検討を行った。

11) 医事活動および医科学調査研究(医事専門委員会)

(1) 医事委員会・アンチドーピング特別委員会・トレーナー部会合同会議

2月14日(土)東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館 出席者 17名

アンチドーピングに関する変更点の確認

各加盟団体内の医科学組織の実態調査報告とドクターバンク制度構築の検討

ハンドボール外傷サーベイランス構築の検討

ハンドボール選手のための食事に関する取り組み(個人アドバイザー制度)報告

トレーナー部会との合同研修会開催についての検討

ハンドボールメディカルガイドラインの作成(執筆項目及び執筆担当者の選定)

(2) 第1回ハンドボール部会トレーナー研修会

6月22日(日)味の素ナショナルトレーニングセンター 参加者 60名

ハンドボールにおける肩関節障害について」 大西信三

膝前十字靭帯損傷予防・再建後のリハビリの実践 浦辺幸夫

最新のドーピング知識と事例紹介 貝沼圭吾

代表チームがトレーナーに求めるもの 栗山雅倫

トレーナー部会登録者数 72名

(3) 第3回日本ハンドボール学会にて発表

女子ユースアジア選手権で施行した尿比重による体内水分量評価 貝沼圭吾

熊本県におけるハンドボールメディカルサポーター育成講習会について 佐久間克彦

ハンドボールプレーヤーにおける脛骨跳躍型疲労骨折の1例 大西信三

大西信三氏が学会大賞を受賞

(4)(公財)日本体育協会公認スポーツドクター及びアスレティックトレーナー受講者推薦

《発掘・育成》

(1)JHA ジュニアアカデミー（育成活動報告）

第1回 期日：6月6日(金)～12日(木)（高校生男女）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ12名、選手29名 合計41名

内容：FC Barcelona から Toni Gerona コーチを招聘しトレーニングを行った。
コーディネーショントレーニングや複合的トレーニングで頭を使いながら、
また一度に多くの判断を求められるトレーニング中心に行った。
選手所属指導者を参加しトレーニングの視察、勉強会も行った。
個人面談を行い、アカデミーでの個人の意欲、目標などの確認を行う。

第2回 期日：8月18日(月)～22日(金)（高校生男女）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ4名、選手22名 合計26名

内容：個人フィジカルトレーニングのレベルアップを中心にトレーニング。
ウエイト、水泳をトレーニングに取入れ筋力UP、心肺機能UPをはかる。
またミーティングの際にも、JOC 専門スタッフによるコミュニケーションスキ
ル、チームビルディングスキル等の知的スキルアップトレーニングも行う。

第3回 期日：9月13日(土)～17日(水)（高校生男女）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ4名、選手21名 合計25名

内容：個人の能力を最大限活かすための基礎トレーニングを中心に行う。
ウエイト、水泳をトレーニングに取入れ筋力UP、心肺機能UPをはかる。

第4回 期日：3月2日(月)～5日(木)（大学生男）

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター（ANTC）

参加：スタッフ9名、選手25名 合計34名

内容：個人の能力を最大限活かすための基礎トレーニングを中心に行う。
ウエイト、水泳をトレーニングに取入れ筋力UP、心肺機能UPをはかる。
個人、組織としてのDFの守り方、方向性の徹底の理解、OF 個人技能、組織
戦術の理解。

(2)JHA ジュニアアカデミー（発掘活動報告）

西日本学生選手権視察（男子）

期日：7月5日(土)～7日(月)

場所：徳島市立体育館ほか

内容：西日本学生選手権に参加している監督、コーチとJHA ジュニアアカデミーに
ついての説明と意見交換を行ってきた。
試合を通じて、大型選手の発掘を行ってきた。

第65回全日本高校選手権大会大会視察

期日：8月4日(月)～8月7日(木)

場所：川崎市とどろきアリーナほか

内容：全国高校選手権大会に参加している監督、コーチとJHA ジュニアアカデミー
についての説明と意見交換を行ってきた。
また、選手発掘に力を入れ、全国の指導者からも地方で活躍している大型選

手の情報も多く入手できた。

西日本学生選手権視察（女子）

期日：8月26日(火)～29日(金)

場所：広島東区スポーツセンター

内容：西日本学生選手権に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

試合を通じて、大型選手の発掘を行ってきた。

男子 57 回女子 50 回全日本学生選手権視察

期日：11月21日(金)～25日(火)

場所：岐阜メモリアルセンターほか

内容：全国学生選手権に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

試合を通じて、大型選手の発掘を行ってきた。

第 38 回全国高校選抜大会視察

期日：3月25日(水)～27日(金)

場所：愛知県豊田市 スカイホール豊田ほか

内容：全国高校選抜大会に参加している監督、コーチと JHA ジュニアアカデミーについての説明と意見交換を行ってきた。

また、平成 27 年度アカデミー選手発掘も行ってきた。

6. 機関誌発行に関する事業

1) 年 8 回の発行維持

1ヶ月平均発行部数 約 4,900 部

(年 1 回登録の小学生チームへ無料配布 約 400 部)

2) 広告協賛 17 社 毎号掲載は 16 社

3) 機関誌の内容を更に充実

(1)自らの取材による記事、及びインタビュー取材による記事の掲載

(2)各委員会の連載継続（医事委員会・審判委員会・学校体育委員会等）

(3)インターネット情報との密接な連携の継続

(4)企画記事

・欧州にて活動選手からの寄稿、欧州で開催のコーチング会議などに関する会議報告、食育関連報告、代表選手名簿の掲載による代表への関心アップ

・2020 東京五輪に向けた連載企画

7. 企画に関する事業

1) プロジェクト事業の協力、推進を行った

(1) リオデジャネイロオリンピック予選準備委員会に協力し、女子アジア予選の日本開催を誘致した

(2) 2019 女子世界選手権準備委員会の推進に協力した

(3) 日本選手権の平成 27 年度開始に協力した

2) ヒロシマ国際大会・日韓定期戦の企画・推進を行った

3) 「2019・2020 プロジェクト」(競技運営)を立ち上げた

4) 「強化戦略プロジェクト」との調整を行った(主に国内スケジュール変更)

8 . 広報に関する事業

1) 広報

- (1) 広報年間スケジュールに基づき活動を行った
定期記者発表 3 回(日本リーグ、日本リーグ男女プレーオフ)
臨時記者発表 3 回、代表合宿メディア公開 2 回
プレスリリース(メールリリースも含め)128 回
(男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他)
- (2) ホームページのリニューアル
- (3) マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他)の取材調整を行った(93 件)
- (4) 大会写真撮影にカメラマンを 4 大会派遣
- (5) 第 17 回アジア競技大会壮行会においてマスコミを招いて懇親を図った
- (6) インターネット発信(ホームページ)の充実を図った

2) インターネット

- (1) 日本協会ホームページの充実を図った
情報発信のスピード化を推進した(大会結果速報用に掲示板を利用した)
更新頻度の増加を図った
- (2) メディアへの露出についてホームページを通じて告知した
- (3) コンテンツ作成の効率化と内容の充実に努めた

9 . 財務・会計に関する事業

平成 26 年度も財政状況が厳しい状況で、緊縮財政を組まなければならない状態であった。事業執行においては、効率良い運営を推進する方針で臨んだ。収入面では、マーケティング事業収入が増収となったことや登録人数増加により登録金収入が増収となった等により予算額を上回る結果となった。支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、補助金の効率的な運用に取り組んだことにより事業活動収支差額は 69,218 千円となった。特定資産取崩収入として平成 26 年度開催のアジア大会・世界大会出場積立金 33,000 千円を取崩し、特定費用準備資金として次年度アジア大会出場積立金を含む 102,000 千円を積立てたことにより当期収支差額は 218 千円、次期繰越収支差額は 64,003 千円となった。

10 . 日本リーグに関する事業

1) 総務部 = 円滑で活気に満ちた大会運営の基盤構築

- (1) 集客数の改善に効果的な施策の 1 つとして、集客指定試合を設定した。各地の独自の取り組みの成果で、1,000 人、2,000 人を超える集客会場が増え、レギュラーシーズン初の 3,000 人を超える集客をした会場もあった。
- (2) 開催地責任者・GM 合同会議を開催し、講師として株式会社エンタテイメントプラス中村拓人氏を招き、チケットへの取り組みについて講演を行った。独自性のある開催地、集客の優れた開催地を表彰した(佐賀県協会、金沢市協会、埼玉県協会、富山県協会、熊本県協会)。
- (3) 開催地の取り組みとして、香川県協会横手健太氏にリーグ戦開催にあたり県内での取り組みを発表頂いた。

- (4) 円滑な大会運営にむけた取り組みとして、大会運営マニュアルを更新して、開催各地へ配布した。
 - (5) 第6回男子チャレンジディビジョンを開催した。
(大同大学、トヨタ自動車、HONDA、HC 和歌山、OSAKA SELECION、FST、HC 岐阜、ボンチェローズ、八光自動車工業、HC 春日井、東北福祉大学、HC・MKA 奈良、同朋クラブ)
 - (6) 大同大学が2年連続優勝をした。
- 2) 広報部 = メディア、ファンに対する情報発信
- (1) 40回大会記念プロジェクトを発足、具体的な実施事項の検討に入った。
 - (2) 貼付スペースに合わせてポスターを2種(B1、B2サイズ)作成した。
 - (3) インターネット中継数を増やすために業者と打合せ、課題が明確になった。
 - (4) 試合開催情報の充実化をはかるために、ホームページの更新頻度を増やした。
 - (5) リーグ開幕前、プレーオフ前に記者発表を実施した。
 - (6) 各チームが、地元TV、ケーブルTV、地方紙とコンタクトした。
 - (7) プレーオフにてインターネット中継を行った。
- 3) マーケティング部 = リーグ機構の収益拡大
- (1) リーグ各チームのマーケティング一括管理に向けて準備を進めた。
- 4) 競技部 = レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解
- (1) JHL レフェリー講習会をチーム監督とJHL オフィシャルと合同で開催、チーム、レフェリーの統一見解をはかった。
 - (2) チャレンジディビジョンに若手レフェリーを招聘、実技を通じた研鑽を実施できた。
 - (3) 第11回東アジアクラブ選手権(中国)にプレーオフ優勝チームを派遣した。
(男子：大同特殊鋼3位、女子：オムロン2位)
 - (4) 日本トップリーグ連携機構主催の審判研修会へJHL レフェリー4名が参加した。
 - (5) 日本トップリーグ連携機構主催の若手研修会へ各チームより合計14名が参加した。
- 5) スケジュール部 = 強化部と連携を図ったスケジュールの設定
- (1) 土日の集中開催により、運営経費軽減を重視したスケジュールを組んだ。
 - (2) 活性化及び観客動員に結びつくよう、好カードを後半に設定した。
 - (3) 40周年記念大会に合わせて、国際スケジュールを踏まえ日本協会強化部と連携しながら日程調整を実施している。
 - (4) 女子アジア選手権の日程変更に伴い、女子レギュラーシーズン、プレーオフの日程変更を急遽行った。
- 6) 記録部 = 情報発信業務の効率化
- (1) リーグ戦の試合結果を担当者が携帯から前半終了時点で直接ウェブサイトに掲載できるようにし、情報発信を早く、効率的に行うようにできた。
- 7) JHL ジュニアリーグ = 全チームがジュニア設立により日本リーグの活性化
- (1) 第4回JHL ジュニアリーグを開催した。
(北陸電力、大同特殊鋼、北國銀行、飛騨高山ブラックブルズ岐阜、HC 名古屋、トヨタ自動車東日本、豊田合成、琉球コラソン、湧永製薬、オムロン、広島メイプルレッズ、トヨタ紡織九州、ソニーセミコンダクタの各ジュニアチーム)
 - (2) プレーオフにて優勝決定戦を実施、白熱した試合展開となった。

(男子優勝：北陸電力、女子優勝：琉球コラソン)

(3) 次年度、愛知県一宮市、広島県広島市で開催することとした。

8) 会議・研修会等

- (1) オーナー懇談会を5月に行い、事業報告、事業計画の説明、日本協会強化本部より、2019年、2020年強化戦略プロジェクトについて説明を行った。
- (2) 日本リーグレフェリー研修会を8月に日本リーグレフェリー、JHL オフィシャル、日本リーグチーム監督と合同で行い判定の統一を図った。
- (3) 開催地責任者・GM合同会議を7月に行い、シーズンの取り組み、運営マニュアルの説明を行い、開催地、チームが集客対策、ファンサービス、広報活動について研修を行い、株式会社エンタテイメントプラス中村拓人氏に講演をいただき、チケットの取り組み方について学んだ。

11. 総務に関する事業

1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

- (1) 評議員会 6月21日(東京)
- (2) 理事会 6月22日(東京) 2月14日(東京)
- (3) 常務理事会 4月12日(東京) 5月10日(東京) 7月12日(東京) 9月13日(東京)
11月8日(東京) 1月17日(東京) 3月14日(東京)
- (4) 本部長会 10月11日(東京)
- (5) 全国理事長会議

第1回：10月15日(水) 長崎県佐世保市九十九島観光ホテル「飛天」で長崎国体競技開始前日に開催。上半期の事業報告行われた。また強化体制・強化計画・強化資金、日本選手権等について説明した。同会終了後懇親会が行われた。

第2回：2月15日(日) 東京にて開催。担当常務理事より主な実施事業について報告が行われた。参加者によるフリーディスカッションを行った。

2) 環境委員会

- (1) スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- (2) クールビズの実施
- (3) 環境省気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同し、「ハンドボールで、低酸素社会へ」と宣言。事務局で制作する名刺にはFun to Shareのロゴを印刷した。

3) 地方協会へ情報伝達の迅速化に努めた

12. 「がんばれハンドボール20万人会」サポート会に関する事業

1) 平成26年度サポート会員総数(平成27年3月31日現在 (カッコ内は前年比))

特別会員	3名 (-1)
グランド会員	199名 (+9)
ファミリー会員	41名 (-6)
ジュニア会員	36名 (-58)

都道府県ファミリー会員	316名 (+ 107)
都道府県グループ会員	9,080名 (+ 5,486)
総数	9,675名 (+ 4,138)

2) 推進活動

- (1) 都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2) 大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1) 毎月の入会・更新作業
- (2) 打合会の開催・事務処理

13. マーケティングに関する事業

1) マーケティング収入 予算 40,000 千円

実績 53,712 千円(日本リーグを除く)

2) その他の収入

- (1) 機関誌広告料収入 2,750 千円
- (2) 寄付金 3,300 千円
- (3) 物品販売 540 千円(マーケティング関係)
- (4) 物品提供 (エアウィーヴ、アシックス)

3) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保

平成 26 年度 10 社

4) 既協賛企業の確保

継続協賛企業 21 社

5) 新規協賛企業

新規協賛企業 3 社

6) マーケティング事業活動

- (1) スポンサー・マスコミ感謝の集いとアジア競技大会壮行会を併せて実施した
- (2) ハンドボールマンゴルフ大会を実施した
- (3) 界友会の実施に協力した
- (4) 協会主催大会及び各都道府県協会、各連盟に対してマーケティング活動の協力指導及び協賛パートナーの拡大に協力した
- (5) JOC、日本トップリーグ連携機構との連携協力によるマーケティング活動の向上を図った
- (6) 広告代理店、イベント会社と新たなマーケティング活動の開拓を図った